

## 足摺巨石ツアーに寄せて



黒潮接岸の半島

## 足摺の巨石

足摺縄文巨石文化研究会

富田無事男

### プロローグ

#### ※ 黒潮接岸の半島

黒潮流軸の遙か洋上から見る半島部は、ちょうど扇を開いた形に見える。

その中に磐座や磐境・立柱石・ストーンサークル等が数えきれなくらい配石されていて、何かを表しているものと推測するが、現在は1500haの広大な面積のほとんどが自然林に覆われ、その全体像を誰にも見させてくれない。

縄文人が双胴船やアウトリガー船で、黒潮や風や星を頼りに最初に接岸したであろう地は、この足摺半島の西南端白塔であろう。

東経133度0分北緯32度54分の白皇山（標高451.1m）を航海目標（シーマーク）とし、唐人石や唐人駐場のストーンサークルが重要なポイントであったと推察される。

#### ※ 地形・地質

ここは海上からは扇を開いた形の島のような半島部で、その扇形部分とその他の部分は地質が歴然と異なる。

扇形部分は、三種類の花崗岩の隆起による海岸段丘で、扇形の斜面稜線、段丘上に巨石の配石遺構や、埋蔵物の発見された遺跡がある。

巨石の配石遺構は、太平洋側に鏡のような見事な面を見せ、自然の摂理を利用して、明らかに移動された巨石を組み合わせた遺構が特徴である。

#### ※ 古からの信仰の地

四国八十八ヶ寺の第88番札所金剛福寺は、今なお多くの信者の参拝がある。

寺紀によれば、鎮護神として勧請された「足摺山奥の院白皇山白皇権現」が記され、古くから信仰の地であったことが伝えられている。

金剛福時開基以前に白皇山は、山

伏修験の山岳信仰の霊境とも口伝があり、白皇山がその霊山であろうと解され、現在も石鎚信仰として、地元信者の参拝がある。

## ※ 補陀洛渡海伝承

金剛福寺には、補陀洛渡海があったことが、文献で伝えられている。伝えられる話によると、「観音の聖地を求めての修行」とかいわれ、何人かの上人が旅立った記録もあると聞いている。

## ※ 巨石遺構

### 1、白皇神社御神体石

金剛福寺の奥の院であり、修験の場でも

あった白皇神社の社殿跡にある三角錐形のご神体石である。

石の周囲には卵より大きめの浜の小石を敷き詰め、注連縄が張られていた。(写真左)



写真1 白皇山の遠景



白皇神社御神体石

### 2、白皇山（白皇山）

現在は白皇山と呼ばれているが、古くは蹉陀山であり、本当の白皇山は数百メートル北側にある。山岳信仰の石鎚神社から分詞された祠が山頂にあり、小さな広場があるが、ここにあったと思われるイワクラは、この広場の造成のため一部変形していると推察される。周辺には、頂上部がパラボラ上の立石や、隼など猛禽類の上半部を表している巨石、大月町にある月山神社のご神体石と同じ三日月形の石、亀の甲羅状に組まれた石などもある。(写真1・2・3)



写真2 コンドルの嘴

### 3、白皇山第二峰

白皇山西側の稜線を一段下ったところに第二峰がある。ここは教育委員会の委託調査のとき、気球による調査で長方形のピラミッドではないかと思われる形状が見られている。50mほどある頂上部の東側には、三ツ石を中心としたイワクラがあり、西側には重ね石や烏帽子岩を中心としたイワクラが配置されている。(写真4・5)



写真3 三日月石



写真6 船形石 写真7 こよみ石

#### 4、県道横の巨石群

旧スカイラインのすぐ横に平行して、小高い丘の稜線沿い約100メートルに及び、一見

要塞を思わせるイワクラ等多様な一台巨石の集積地がある。

#### 5、影平山

樹齢40～50年と思われる照葉樹林の半径約100メートル以内に、船形石・陽石・イワクラ等多種多様の巨石展開がある。(写真6・7)

#### 6、唐人石巨石群と唐人駄場

足摺縄文巨石群の中心である。唐人石の中心は坊主岩である。正面にある千畳敷岩からの唐人駄場方面の眺望は圧巻である。

唐人石は、ストーンサークルやイワクラ・磐境などが集積した不思議な巨大岩塊である。

唐人駄場は、航空写真で見ると双子のサークルである。

写真 広さ約3ヘクタールもある最大規模の卵形サークルだが、残念なことには20数年前に公園化のため内部の立石やイワクラ等は、取り壊されてしまった。

ここからは、大分県姫島産の黒曜石で作られた鏃等が表面採取され、特に水晶のやじりは珍しいもので、約7,000年前の縄文遺跡とされている。(写真8)



スのイワクラ(磐座)



アネモスの



写真 10 臼碇展望所から沖臼を望む(パノラマ合成)

## 7、北代邸

円錐形のイワクラである。庭園として大切に管理されており、イワクラ(磐座)の全貌が観察できる唯一の場所であり、風人アネモスの配石画があるといわれている。(写真9)

## 8、臼碇

黒潮が直接接岸する小島「沖臼(おきうす)」周辺は、渦を巻きながら西から東へと流れが体感できる。近くには、竜宮神社や経塚、ストーンサークル等があり、山頂の展望は絶景である。(写真10)

## 9、松尾の石垣

昔から石が生活に活用されており、見事な石垣が存在する。以前は、集落内の道のほとんどが、石張りされていたが現在ではわずかに数メートルが残されているのみである。

## 10、灘の大岩

高さ10メートルはあろうか、巨石群最大の岩である。この岩は、中心が空洞となった数個の円形状の石で支えられ、鎮座している。周辺の人々が雨降りの日等に集合し、当時の唯一の楽しみであった「ほうびき」をして楽しんだと言う古老の話がある。

1,500haの広葉樹林の中に展開し、確認されているだけで250〜300箇所くらいのイワクラ（磐座）・磐境・ストーンサークル等、多種多様な巨石遺構が点在し、今回紹介したものはその一部である。

参考・引用文献 黒潮と縄文巨石文明他